山梨市文化財調査報告書　第３集

宮ノ前遺跡

平成７年３月

山梨市教育委員会

序

山梨市には、90にのぼる遺跡が存在しているといわれています。しかし、それらのうち発掘調査が行われたものは少なく、詳しい内容が明らかになっているものはほとんどないという状況です。文化財の保存という点から考えると、発掘調査は望ましい方法とは言えませんが、開発により破壊される遺跡については記録を残さなければなりません。

今回の調査では、105㎡という狭い範囲の調査にもかかわらず、溝状の遺構1条が検出されたほか、縄文土器が多量に出土しました。それらの縄文土器は遺構の年代と一致するものではありませんが、付近に縄文時代の集落跡が存在することを物語っています。また、量は少ないものの、平安時代の遺物も出土しており、七日子神社や七日子遺跡など、周辺の遺跡相互の関係を考える上で貴重な資料になると思われます。

末筆になりますが、御協力を賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

山梨市教育委員会

教育長 向　山　保　雄

目　　次

序
例　言
第１章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査組織 …… 1
第３節　調査方法と経過 …… 1
第２章　調査地の環境
第１節　地理的環境 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　基本層序 …… 4
第４章　遺構と遺物
第１節　遺　構 …… 6
第２節　遺　物 …… 7
第５章　考　察 …… 24

挿　図　目　次

第１図　調査区全体図 …… 2
第２図　遺跡位置図 …… 3
第３図　第2トレンチ南壁セクション図 …… 5
第４図　溝状遺構平面図・セクション図 …… 6
第５図　出土遺物 …… 13
第６図　出土遺物 …… 14
第７図　出土遺物 …… 15
第８図　出土遺物 …… 16
第９図　出土遺物 …… 17
第10図　出土遺物 …… 18
第11図　出土遺物 …… 19
第12図　出土遺物 …… 20
第13図　出土遺物 …… 21
第14図　出土遺物 …… 22
第15図　出土遺物 …… 23

図　版　目　次

図版１ …… 25
図版２ …… 26
図版３ …… 27

例　　言

1　本書は、山梨県山梨市七日市場字東宮ノ前南1040番地に所在する、宮ノ前遺跡の発掘調査報告書である。

2　本発掘調査は、分譲宅地造成に伴う緊急発掘調査で、有限会社廣瀬不動産の委託を受け山梨市教育委員会が実施した。

3　発掘調査から本書作成に至るまで、次の諸氏・諸機関に御教示、御協力を賜った。記して謝意を表したい。（敬称略）

山梨県教育委員会学術文化課　小野正文、保坂康夫
塩山市教育委員会　飯島　泉
牧丘町教育委員会　大崎文裕

4　本書の執筆・編集は山梨市教育委員会社会教育係　三澤達也が行った。
なお、これらの作業を堀内博雄、小河いつゑ、深沢さつき、黒瀬信子、戸田ひろ、雨宮久美子が授けた。

5　調査に関する諸記録および出土遺物は、すべて山梨市教育委員会が保管している。

凡　　例

1　遺物番号は、挿図・図板及び遺物観察表で一致する。

2　土色は「新版標準土色帖」（小山・竹原　1976）を参照した。

3　挿図第２図には、国土地理院発行の1／50,000地形図「御岳昇仙峡」を使用している。

4　挿図中のレベルは標高値を示している。

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成５年８月３日、有限会社廣瀬不動産（以下、廣瀬不動産）から山梨市教育委員会に、文化財保護法第57条の２による届出がなされた。当初、２区画の分譲のうち具体的な計画が進んでいる１区画分のみの届が提出されたが、その後市教委に廣瀬不動産から、もう１区画においても工事することが確実であるから同時に調査してもらいたいとの相談があり、市教委でその区画分の届出を新しく提出するよう指導したところ、平成５年８月19日、残りの１区画分も含めた２区画分の届出がなされた。

当該地は、踏査の段階で土器が多量に表面採集されたことから、地下に遺跡が存在する可能性が高いと思われる地区であった。

平成５年８月26日、県教育委員会より発掘調査を行わなければならない旨の通知がなされ、文化庁へ発掘通知を提出し、平成５年８月17日より調査が開始された。

第２節　調 査 組 織

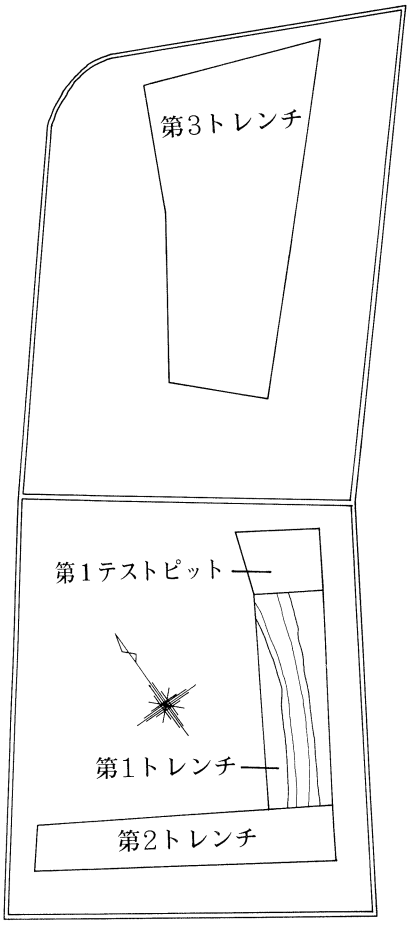
１　調査主体
　山梨市教育委員会
２　調査担当
　三澤達也（山梨市教育委員会）
３　調査参加者
　本田三夜子、林　周子、黒瀬信子、戸田ひろ、雨宮久美子

第３節　調査方法と経過

開発対象面積488㎡のうち、最終的な調査面積は105㎡であった。

今回の調査は試掘を行っていないので、まずトレンチ状に発掘区を設定し、土層の堆積状況把握および遺構の確認作業を行った。

最初に、重機によって第１テストピットから表土を除去していった。地表下は大規模な攪乱を受けており、土層の確認さえ困難な状況であった。攪乱土を排除したところ、地表下150㎝まで達し、ローム層となった。土層断面を精査したところ、地表下80㎝のところに遺物含層と思われるものが見られた。



第1図 調査区全体図（S＝1／300）

次に、重機により第１トレンチの表土を除去した後、人力によって精査し、遺構のプラン確認を行った。５㎝ずつ20㎝掘り下げた段階で遺構は検出されなかったため、第２トレンチをローム面まで掘り下げた。その結果、ローム面での遺構の検出はされなかったものの、第１トレンチとの接合部のセクションに溝状の落ち込みが確認された。第１トレンチを引き続き掘り下げたところ、ほぼ南北にはしる溝状のプランを確認した。

第３トレンチは攪乱が著しく、ローム面より上での遺構検出は不可能と判断し、拡張後、重機によってローム面まで掘り下げ、人力により精査した。その結果遺構及び遺物は確認されなかった。

第１トレンチについては、拡張を試みたが、攪乱の範囲が広く、断念した。したがって遺構の覆土掘削作業を行ったのは、実質的には第１トレンチのみであった。

調査は平成５年９月13日に終了した。

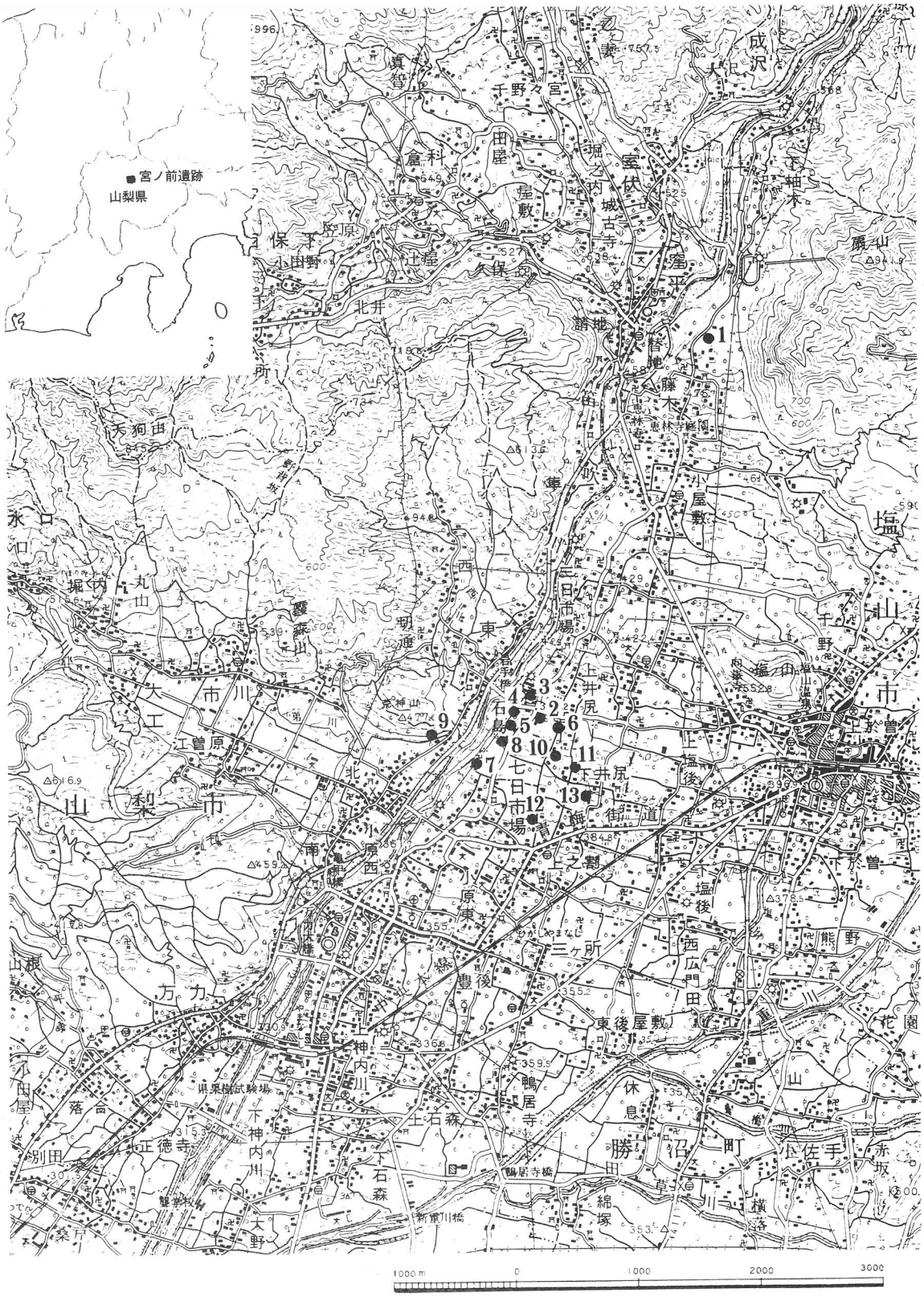
第２章　調査地の環境

第１節　地理的環境

山梨市の地形を大きく分けると、市の中央を南北に縦断する笛吹川を挟んで西側が山地、東側が低地の２つに分けられる。 山地は地形分類上、水ケ森山地と呼ばれ[1]、第三紀には水ケ森火山体を形成していたが、開析が進んで火山体の地形が失われたものである。低地部はさらに、兄川・弟川平野と笛吹川扇状地とに分けられる。兄川・弟川平野は、水ケ森火山を開析した谷底部に広がり、兄川・弟川により段丘化している。笛吹川扇状地は、塩山市藤木付近（第２図①）を扇頂部とし、笛吹川より東側に広く分布している。

宮ノ前遺跡は、笛吹川扇状地の扇央部に立地し（②）、標高は399ｍを測る。調査地の西約300ｍには笛吹川が流れ、その両岸には部分的に河岸段丘地形がみられる。

地質的には、調査地付近は沖積堆積物とされる厚い砂礫層に覆われている。



第2図　遺跡位置図

第２節　歴史的環境

宮ノ前遺跡の周辺には、縄文時代及び奈良・平安時代の遺跡（包蔵地）が点在している。調査地の筋向かいには七日子神社があり、その北側から西側にかけて昭和24年に上野晴朗氏によって調査された七日子遺跡（第２図③)がある。七日子遺跡からは、縄文時代中期と奈良・平安時代の居住址および遺物が出土している[2]。 本調査地を含む宮ノ前遺跡の周辺には、縄文時代の遺跡として、上川窪遺跡（④）・下弥勒遺跡（⑤）・宮ノ前南遺跡（⑥）・中沢遺跡（⑨)があり、中期の土器がそれぞれ表面採集されている[3]。奈良・平安時代の遺跡としては、宮ノ前遺跡・宮ノ前南遺跡・天神原遺跡（⑦）・西ノ久保遺跡（⑧）・中沢遺跡・十王堂遺跡（⑩）・阿弥陀堂遺跡（⑪）・宮ノ西遺跡（⑫）・東原遺跡（⑬）があり、奈良・平安期の土師器が表面採集されている[4]。

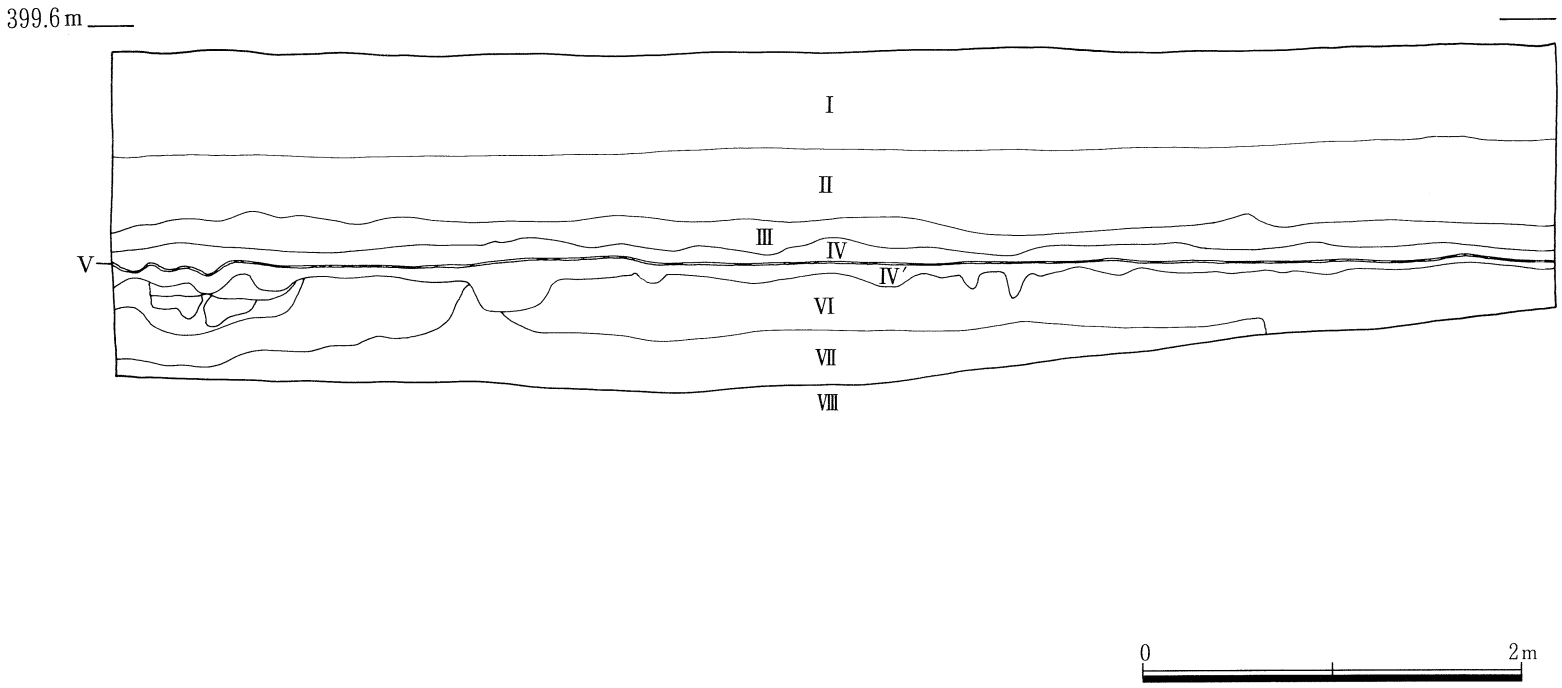
(1)　『土地分類期本調査　御岳昇仙峡』1985　山梨県企画管理局土地水管理課。
(2)　上野晴朗「第６章　関連遺跡　七日子遺跡」『日下部』1987　山梨市教育委員会
(3)・(4)　昭和53年の分布調査時の調査カードによる。

第3章　基 本 層 序

基本層序は、第２トレンチ北壁で確認した。土層は以下のように分けられた。

第Ⅰ層	Hue10YR4／2灰黄褐色	耕作土。厚さ40cm。
第Ⅱ層	Hue10YR5／2灰黄褐色	しまり弱い。厚さ30cm。
第Ⅲ層	Hue10YR2／3黒褐色	Ⅱ層と交ざる。厚さ10cm。
第Ⅳ層	Hue10YR2／2黒褐色	金雲母・石英を多量に含む、。赤色粒子を微少に含む。ややしまる。厚さ5～20cm。
第Ⅴ層	Hue2.5YR3／4暗褐色	赤く変色している。鉄分が酸化したものか。強くしまる。厚さ2cm未満
第Ⅳ′層	Hue10YR2／2黒褐色	Ⅳ層と同じ。
第Ⅵ層	Hue10YR3／4暗褐色	炭化物・赤色粒子を微少に含む。厚さ約30cm。
第Ⅶ層	Hue10YR2／3黒褐色	しまりやや強い。粘性あり。約30cm。
第Ⅷ層	Hue10YR5／6黄褐色	Hue10YR3／4暗褐色がブロック状に50％程度交ざる。
第Ⅸ層		砂礫層。

このうちⅣ層からⅣ′層に、縄文時代及び平安時代の遺物が包含されている。現地表下約80～120cmである。

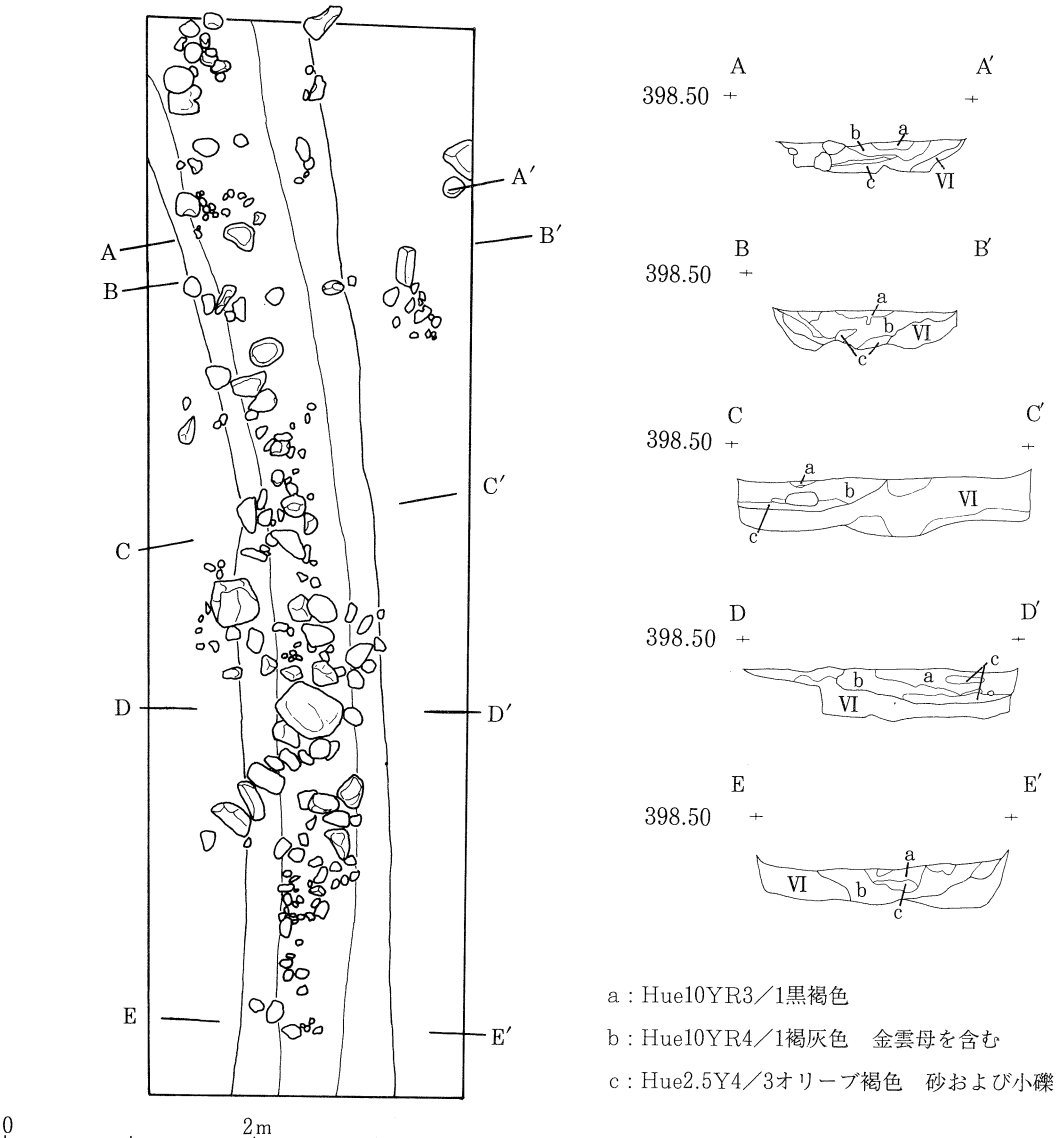


第3図　第2トレンチ南壁セクション図

第4章　遺構と遺物

第1節　遺　　構

今回の調査では、溝状の遺構１条が検出された。第１トレンチ内に位置し、ほぼ南北に走っている。南北両側で調査区域外に続いており、長さは不明であるが、北側の第３トレンチでは確認されなかった。幅は100㎝～150㎝、深さ20㎝～35㎝。覆土中に砂を含む層が認められ、溝部全体に礫が散乱している。礫は、径1㎝以下のものから最大のもので径50㎝を測り、粒径・円形度とも不揃いである。遺物は縄文時代の土器及び石器、平安時代の土師器が出土している。



a：Hue10YR3／1黒褐色

b：Hue10YR4／1褐灰色　金雲母を含む

c：Hue2.5Y4／3オリーブ褐色　砂および小礫を含む

第4図　溝状遺構平面図・セクション図

第2節　遺　　物

土器観察表　　（SD－1：1号溝状遺構の略）

番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　土
1	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線・撚糸文　146と同一個体の可能性あり。	にぶい褐色	長石・金雲母
2	ＳＤ－1	Ⅳ′	粘土紐による貼り付け文上に爪形文	明褐色	石英・長石・金雲母
3	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線による山形文	明褐色	長石・金雲母
4	ＳＤ－1	Ⅳ′	横位平行沈線・斜位平行沈線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
5	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部 口唇部に爪形文、その下に平行沈線による逆くの字状文	明褐色	石英・長石・金雲母
6	ＳＤ－1	Ⅳ′	ＲＬ縄文・沈線文	褐色	石英・長石
7	ＳＤ－1	Ⅳ	ヘラによる沈線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
8	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文ＬＲ縄文	明褐色	長石
9	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。平行沈線による区画中に条線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
10	ＳＤ－1	Ⅳ′	撚糸文	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
11	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線文	褐色	長石・金雲母
12	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線とその下に斜位平行沈線	橙色	長石
13	ＳＤ－1	Ⅳ	縦位平行沈線	にぶい褐色	長石
14	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線文	にぶい褐色	長石・金雲母
15	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部にヘラによる沈線、その下に平行沈線による山形文	明褐色	長石・金雲母
16	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線による格子文	にぶい褐色	長石・金雲母
17	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線・条線	にぶい褐色	石英・長石
18	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部に刻目	明褐色	石英・長石・金雲母
19	ＳＤ－1	Ⅳ	磨消縄文・沈線文	にぶい褐色	石英・長石
20	ＳＤ－1	Ⅳ	わらび文	にぶい褐色	石英・長石
21	ＳＤ－1	Ⅳ	粘土紐による貼付け、平行沈線による山形文	明褐色	長石
22	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・斜位平行沈線	明褐色	石英・長石・金雲母
23	ＳＤ－1	Ⅳ	斜位沈線文	明褐色	長石
24	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文・磨消縄文	橙色	石英・長石・金雲母
25	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい褐色	長石
26	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文	にぶい褐色	石英・長石
27	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文・平行沈線	橙色	石英・長石・金雲母
28	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文の地文上に縦位平行沈線と撚糸文 29と接合。	明褐色	石英・長石・金雲母
29	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文の地文上に縦位平行沈線と撚糸文 28と接合。	明褐色	石英・長石・金雲母
30	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部にヘラによる沈線、その下に沈線による山形文	にぶい褐色	長石
31	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部に貼付文、その下にヘラによる沈線と三角形の刺突文	にぶい褐色	長石
32	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・斜位平行沈線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
33	ＳＤ－1	Ⅳ	波状口縁。平行沈線による区画内に条線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
34	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文	橙色	長石
35	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	橙色	
36	ＳＤ－1	Ⅳ	折り返し口縁	にぶい褐色	長石・金雲母
37	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文	橙色	石英・長石
38	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	橙色	長石
39	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。平行沈線	橙色	長石
40	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	明褐色	長石
41	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい褐色	石英・長石
42	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母

番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　　土
43	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	橙色	長石
44	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
45	ＳＤ－1	Ⅳ′	横位平行沈線・斜位平行沈線	橙色	石英・長石
46	ＳＤ－1	Ⅳ′		にぶい褐色	石英・長石
47	ＳＤ－1	Ⅳ	頸部と胴部との境目に横位平行沈線をもち、胴部に櫛描文	暗赤褐色	石英・長石・金雲母
48	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文の地文上に縦位平行沈線と撚糸文	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
49	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部に耳状の把手。平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
50	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線による格子文	にぶい赤褐色	石英・長石
51	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部に爪形文、平行沈線・押し引き文	明赤褐色	石英・長石
52	ＳＤ－1	Ⅳ	斜位平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
53	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	明赤褐色	石英・長石
54	ＳＤ－1	Ⅳ	懸垂状撚糸文	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
55	ＳＤ－1	Ⅳ	折り返し口縁。口縁部内側および外側にＬＲ縄文、平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
56	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部が直角に外反し、上面に沈線と粘土紐による格子目文	にぶい赤褐色	長石
57	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
58	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線の下にＬＲ縄文	褐色	石英・長石・金雲母
59	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
60	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線・撚糸文	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
61	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文・撚糸文の地文上に平行沈線による区画、三角形刺突文	褐色	石英・長石
62	ＳＤ－1	Ⅳ	ＲＬ縄文の地文上に沈線による渦巻文	にぶい褐色	石英・長石
63	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい褐色	長石
64	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線。底部に剥離痕	にぶい赤褐色	長石・金雲母
65	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石・金雲母
66	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	橙色	長石・金雲母
67	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石
68	ＳＤ－1	Ⅳ	ＲＬ縄文	にぶい赤褐色	長石・金雲母
69	ＳＤ－1	Ⅳ	折返し口縁。口縁部に二重沈線、沈線間に刻目	にぶい橙色	長石
70	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線・撚糸文	にぶい橙色	石英・長石
71	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
72	ＳＤ－1	Ⅳ	櫛描文	明褐色	
73	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線文とその下に条線文	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
74	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口縁部に爪形文、平行沈線	橙色	石英・長石
75	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	明褐色	石英・長石・金雲母
76	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口縁部に爪形文、その下に三角形刺突文 平行沈線	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
77	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線 78と接合。	明褐色	長石・金雲母
78	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線 77と接合		
79	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口縁部に爪形文、平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
80	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部内側に沈線文と粘土紐の貼り付け。沈線の地文上に三角形の刺突文と平行沈線	にぶい褐色	長石
81	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
82	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
83	ＳＤ－1	Ⅳ′	折返し口縁。沈線文・三角形の刺突文	にぶい褐色	長石
84	ＳＤ－1	Ⅳ′	耳状の貼付文。横位沈線文の上から縦位沈線を施す。	橙色	長石

番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　土
85	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線による半円形の区画中に縦位平行沈線	にぶい褐色	長石
86	ＳＤ－1	Ⅳ′	折返し口縁。口縁部に爪形文、斜位平行沈線を挟んで上下に横位平行沈線。胴部は無文	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
87	ＳＤ－1	Ⅳ′	縦位平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
88	ＳＤ－1	Ⅳ′	横位平行沈線と三角形の刺突文。下部は撚糸文	明褐色	長石
89	ＳＤ－1	Ⅳ	縦位平行沈線	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
90	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。口唇部に爪形文、斜位沈線文を挟んで上下に横位平行沈線。	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
91	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石
92	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
93	ＳＤ－1	Ⅳ′	ＲＬ縄文	にぶい橙色	長石
94	ＳＤ－1	Ⅳ′	撚糸文	にぶい橙色	長石・金雲母
95	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。平行沈線・押引き文	にぶい黄橙色	長石・金雲母
96	ＳＤ－1	Ⅳ′	横位平行沈線文・撚糸文	にぶい黄橙色	長石・金雲母
97	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。縦位平行沈線・横位平行沈線。平行沈線に山形文	橙色	
98	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	にぶい橙色	長石
99	ＳＤ－1	Ⅳ	波状口縁。口縁部把手に爪形文、平行沈線	にぶい黄橙色	石英・長石・金雲母
100	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。横位平行沈線とその下に爪形文。下部はＬＲ縄文と撚糸文	にぶい橙色	長石・金雲母
101	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
102	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。口唇部に爪形文	明赤褐色	長石
103	ＳＤ－1	Ⅳ′	斜位平行沈線	明褐色	石英・長石・金雲母
104	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。斜位平行沈線	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
105	ＳＤ－1	Ⅳ	刺突文・平行沈線	明赤褐色	長石
106	第1トレンチ	Ⅱ	粘土紐による波状文。ＬＲ縄文	にぶい橙色	石英・長石
107	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。平行沈線と三角形の刺突文	にぶい褐色	長石
108	第2トレンチ	Ⅲ	ＬＲ縄文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
109	第2トレンチ	Ⅲ	折返し口縁。平行沈線と三角形の刺突文	橙色	長石
110	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線。ＲＬ縄文・撚糸文 178と接合	明赤褐色	
111	第1トレンチ	Ⅲ	平行沈線	明赤褐色	長石
112	第1トレンチ	Ⅲ	ＬＲ縄文	にぶい橙色	長石
113	第1トレンチ	Ⅲ	口縁部。平行沈線	にぶい赤褐色	長石・金雲母
114	ＳＤ－1		平行沈線	橙色	長石・金雲母
115	ＳＤ－1		折返し口縁。平行沈線	にぶい橙色	長石
116	ＳＤ－1		横位平行沈線・懸垂状の撚糸文	にぶい橙色	長石
117	ＳＤ－1		平行沈線	橙色	長石
118	ＳＤ－1		頸部に縦位沈線、その下に横位平行沈線。撚糸文	橙色	石英・長石・金雲母
119	ＳＤ－1		口縁部。横位平行沈線・三角形刺突文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
120	ＳＤ－1		ＬＲ縄文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
121	ＳＤ－1		沈線文	橙色	長石・金雲母
122	ＳＤ－1		縦位平行沈線	橙色	長石
123	ＳＤ－1		楕円形区画中に斜位平行沈線	橙色	長石・金雲母
124	ＳＤ－1		平行沈線	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
125	ＳＤ－1		ＬＲ縄文・縦位平行沈線	橙色	長石・金雲母
126	ＳＤ－1		平行沈線	にぶい橙色	長石

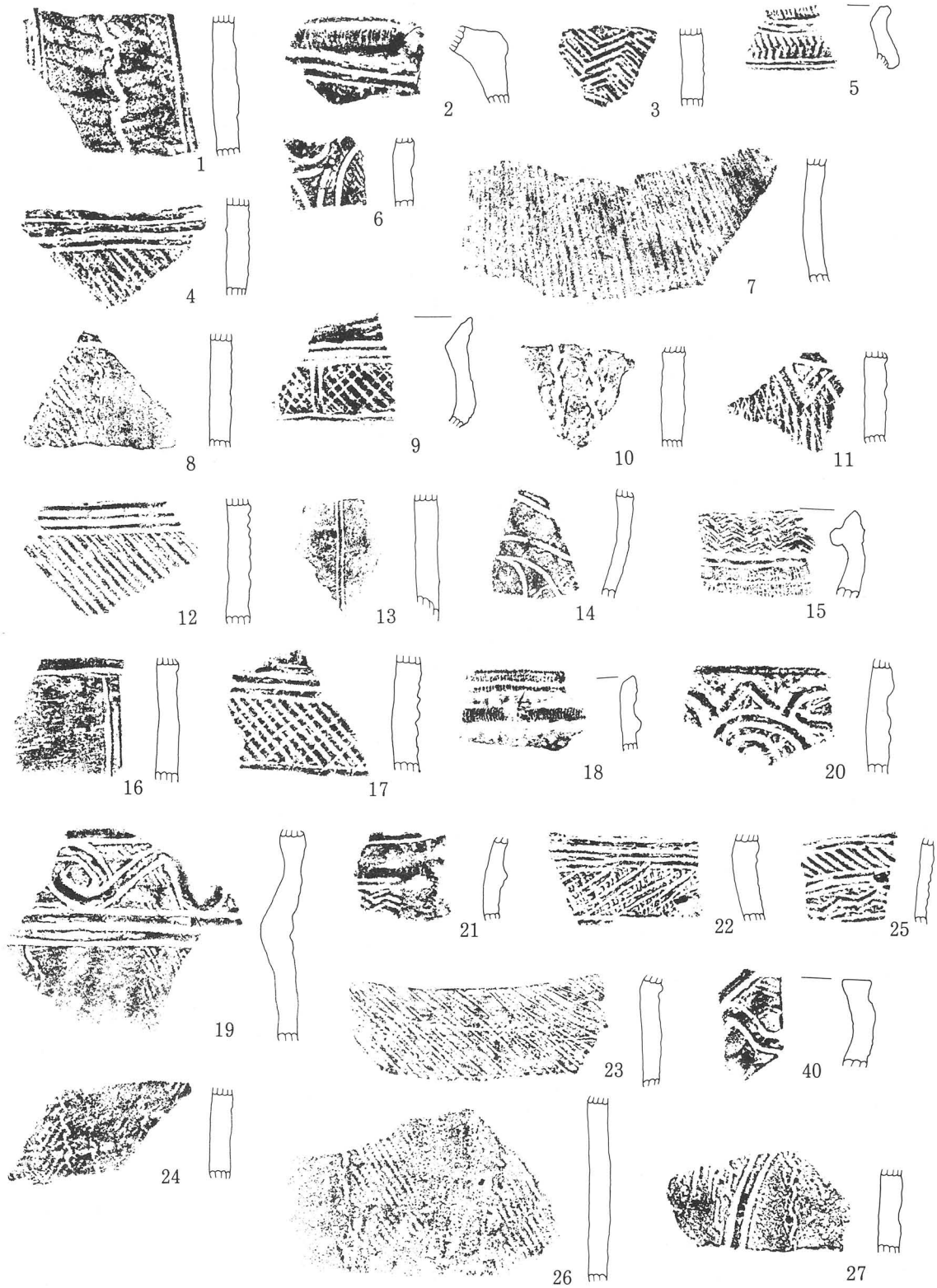
番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　土
127	ＳＤ－1		斜位沈線文、その下に横位平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
128	ＳＤ－1	Ⅳ	縦位平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
129	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・撚糸文	にぶい橙色	長石
130	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・斜位平行沈線	にぶい橙色	長石・金雲母
131	第2トレンチ	Ⅳ	横位平行沈線	橙色	長石
132	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線による山形文	にぶい橙色	長石
133	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線・撚糸文	橙色	長石
134	第2トレンチ	Ⅳ	斜位沈線文	にぶい橙色	長石
135	第2トレンチ	Ⅳ	頸部、横位平行沈線と三角形の刺突文、その下に細かい縦位沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
136	第2トレンチ	Ⅳ	斜位平行沈線文	橙色	長石
137	第2トレンチ	Ⅳ	斜位平行沈線文	にぶい橙色	長石
138	第2トレンチ	Ⅳ	斜位沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
139	第2トレンチ	Ⅳ	口縁部。沈線文	にぶい橙色	長石
140	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線文	明赤褐色	長石・金雲母
141	第2トレンチ	Ⅳ	波状口縁。渦巻文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
142	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線文	橙色	長石
143	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
144	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線による縦長の区画中に沈線文を施し、その回りに沿って貼りつけた粘土紐上に爪形文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
145	第2トレンチ	Ⅳ	撚糸文・RL縄文	にぶい橙色	長石
146	第2トレンチ	Ⅳ	縦位平行沈線文・撚糸文 １と同一個体の可能性あり。	にぶい橙色	長石
147	第2トレンチ	Ⅳ	渦巻文・撚糸文	にぶい橙色	長石
148	第2トレンチ	Ⅳ	平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
149	ＳＤ－1	表土	横位平行沈線・撚糸文・ＬＲ縄文	にぶい橙色	長石
150	ＳＤ－1	表土	口縁部。平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
151	ＳＤ－1	表土	平行沈線文	にぶい褐色	長石・金雲母
163	ＳＤ－1	Ⅳ′	横位平行沈線・縦位沈線文・ＲＬ縄文	にぶい橙色	長石
164	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。口唇部に沈線文、その下に刺突文。	にぶい橙色	長石
165	ＳＤ－1	Ⅳ′	沈線文・撚糸文	にぶい橙色	長石
166	ＳＤ－1	Ⅳ′	底部。懸垂状の平行沈線と撚糸文	にぶい橙色	石英・長石・金雲母
167	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部。口唇部に爪形文、その下に平行沈線文	にぶい橙色	長石
168	ＳＤ－1	Ⅳ′	頸部に横位平行沈線文。細かい縦位沈線文の地文上に平行沈線と刺突文を施す。	にぶい橙色	長石・金雲母
169	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。細かい縦位沈線文の地文上に平行沈線と刺突文を施す。	にぶい橙色	長石・金雲母
170	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線	にぶい橙色	長石・金雲母
171	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線・撚糸文・ボタン状貼りつけ文	にぶい橙色	長石・金雲母
172	ＳＤ－1	Ⅳ′	撚糸文・ＬＲ縄文	橙色	長石
173	ＳＤ－1	Ⅳ′	撚糸文	橙色	長石・金雲母
174	ＳＤ－1	Ⅳ′	折返し口縁。縦位沈線文の地文上に平行沈線と刺突文を施す。	にぶい橙色	長石
175	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石
176	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線	にぶい橙色	長石
177	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石
178	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線による区画の中にＲＬ縄文と撚糸文 １１０と接合。	にぶい橙色	長石・金雲母
179	ＳＤ－1	Ⅳ	底部。懸垂状の撚糸文	にぶい橙色	長石・金雲母

番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　土
180	ＳＤ－1	Ⅳ	条線文	にぶい橙色	長石・金雲母
181	ＳＤ－1	Ⅳ	条線文	にぶい橙色	長石・金雲母
182	ＳＤ－1	Ⅳ	粘土紐による貼付け文上に爪形文。平行沈線	にぶい橙色	長石
183	ＳＤ－1	Ⅳ	把手部分に爪形文。平行沈線	明赤褐色	長石
184	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。縦位沈線文･三角形の刺突文・平行沈線	にぶい赤褐色	長石
185	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文	にぶい褐色	長石
186	ＳＤ－1	Ⅳ	貼付け文上に爪形文・横位平行沈線	にぶい赤褐色	長石・金雲母
187	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部に爪形文。平行沈線	にぶい橙色	長石
188	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・撚糸文	にぶい赤褐色	長石
189	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。口唇部に爪形文。横位平行沈線	にぶい橙色	長石
190	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。	明褐色	長石・金雲母
191	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい橙色	長石
192	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	橙色	長石
193	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
194	ＳＤ－1	Ⅳ	櫛描文	にぶい橙色	長石
195	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部に細かい縦位沈線文、その上から三角形の刺突文	にぶい褐色	長石・金雲母
196	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線文・ＲＬ縄文	にぶい橙色	長石
197	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線	にぶい褐色	長石・金雲母
198	ＳＤ－1	Ⅳ	ＬＲ縄文	にぶい褐色	石英・長石・金雲母
199	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。沈線文	にぶい褐色	長石・金雲母
200	ＳＤ－1	Ⅳ	沈線文・ボタン条貼りつけ文	にぶい橙色	長石
201	ＳＤ－1	Ⅳ	ＲＬ縄文	にぶい橙色	長石
202	ＳＤ－1	Ⅳ	撚糸文・羽状縄文	にぶい橙色	長石
203	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。撚糸文	にぶい橙色	長石
204	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線・撚糸文	明褐色	長石
205	ＳＤ－1		平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
206	ＳＤ－1		平行沈線文	にぶい褐色	長石・金雲母
207	ＳＤ－1		口縁部。口唇部に爪形文。平行沈線	明赤褐色	長石
208	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線文・三角形の刺突文	橙色	長石
209	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線文	にぶい赤褐色	長石
210	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線文	にぶい橙色	長石
211	ＳＤ－1	Ⅳ	平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
212	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部。斜位沈線文・平行沈線	にぶい橙色	長石
213	ＳＤ－1	Ⅳ	口唇部に爪形文。平行沈線	明褐色	長石・金雲母
214	ＳＤ－1	Ⅳ	口唇部に爪形文。平行沈線	にぶい橙色	長石
215	ＳＤ－1		口唇部に爪形文。頸部に斜位沈線文。平行沈線	にぶい橙色	長石・金雲母
216	ＳＤ－1	Ⅳ	口唇部。細かい縦位沈線文、三角形の刺突文	にぶい橙色	長石・金雲母
217	ＳＤ－1	Ⅳ	横位平行沈線・刺突文	にぶい橙色	長石・金雲母
218	ＳＤ－1	Ⅴ	隆帯文・ＲＬ縄文	にぶい橙色	長石
219	ＳＤ－1	Ⅴ	平行沈線文	にぶい橙色	長石・金雲母
220	ＳＤ－1	Ⅴ	沈線文・三角形の刺突文	にぶい橙色	長石
221	ＳＤ－1	Ⅴ	条線文	橙色	長石

番号	出土地点	層位	特　　徴	色　調	胎　土
222	ＳＤ－1	Ⅴ	口縁部。貼付け文	にぶい橙色	長石
223	ＳＤ－1	Ⅴ	羽状縄文	橙色	長石
224	ＳＤ－1	Ⅴ	口縁部。沈線文・ＲＬ縄文	明褐色	長石・金雲母
225	ＳＤ－1	Ⅴ	縦位平行沈線	橙色	長石
226	ＳＤ－1	Ⅴ	撚糸文	明褐色	長石・金雲母
227	ＳＤ－1	Ⅴ	底部。撚糸文	にぶい橙色	長石
228	ＳＤ－1	Ⅴ	口縁部。口唇部に撚糸文。平行沈線	にぶい橙色	長石
229	ＳＤ－1	Ⅴ	平行沈線	にぶい橙色	長石
230	ＳＤ－1	Ⅴ	平行沈線	明黄赤褐色	長石
231	ＳＤ－1	Ⅳ′	縦位沈線文・横位平行沈線	にぶい橙色	長石・金雲母
232	ＳＤ－1	Ⅳ′	平行沈線	にぶい赤褐色	長石
233	ＳＤ－1	Ⅳ′	縦位平行沈線・横位平行沈線	にぶい橙色	長石
234	ＳＤ－1	Ⅳ′	口縁部装飾把手。渦巻文の中心に貫通孔、縦位沈線文・三角形刺突文	にぶい褐色	密
235	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部の外側に細かい縦位沈線文、内側に粘土紐による渦巻状貼付け文	明赤褐色	密
236	第2トレンチ	Ⅲ	口縁部に長円形の装飾。口唇部に爪形文、その下に縦位沈線文	にぶい赤褐色	石英・長石・金雲母
237	ＳＤ－1		口縁部に貼付け文	橙色	長石・金雲母
238	第3トレンチ		口縁部。平行沈線、爪形文のある把手	明黄赤褐色	長石・金雲母
239	ＳＤ－1	Ⅳ	口縁部に縦位沈線文、把手に横位沈線文、円形刺突文	明赤褐色	長石・金雲母
240	第2トレンチ	Ⅳ	把手。貼付け文上の爪形文	明黄赤褐色	長石・金雲母
241	ＳＤ－1	Ⅳ	把手。縦位櫛描文・ヘラによる沈線	橙色	長石・金雲母
242			把手。横位貼りつけ文・縦位沈線文・平行沈線による渦巻文	橙色	石英・長石
243	ＳＤ－1		ミニュチュア土器。胴部がくびれる。口径5.8cm、底径4.2cm、器高4.0cm	橙色	長石
244	ＳＤ－1		ミニュチュア土器。胴部外面に剥離痕あり。口径5.8cm、底径4.2cm、器高4.0cm	橙色	石英・長石・金雲母
245			土偶。胸部。頭・腕・腰から下が欠損。乳房あり。高さ5.2cm 幅3.1cm 厚さ2.0cm	橙色	石英・長石・金雲母
246			不明土製品。	にぶい橙色	長石
247			不明土製品。	にぶい橙色	長石
248	ＳＤ－1	Ⅳ	土師器坏。体部外面下半手持ヘラ削り。内面に放射状暗文底部回転糸きり。墨書あり。口径11cm 底径5.4cm 高さ4.4cm	橙色	石英・長石・金雲母
249	ＳＤ－1	Ⅳ	土師器甕。胴部小片。外面縦ハケ・内面横ハケ	明赤褐色	石英・長石・金雲母
250	ＳＤ－1	Ⅴ	土師器甕。胴部小片。外面縦ハケ・内面横ハケ	明赤褐色	石英・長石・金雲母
251	ＳＤ－1	Ⅱ	須恵器壺。底部破片。	褐灰色	

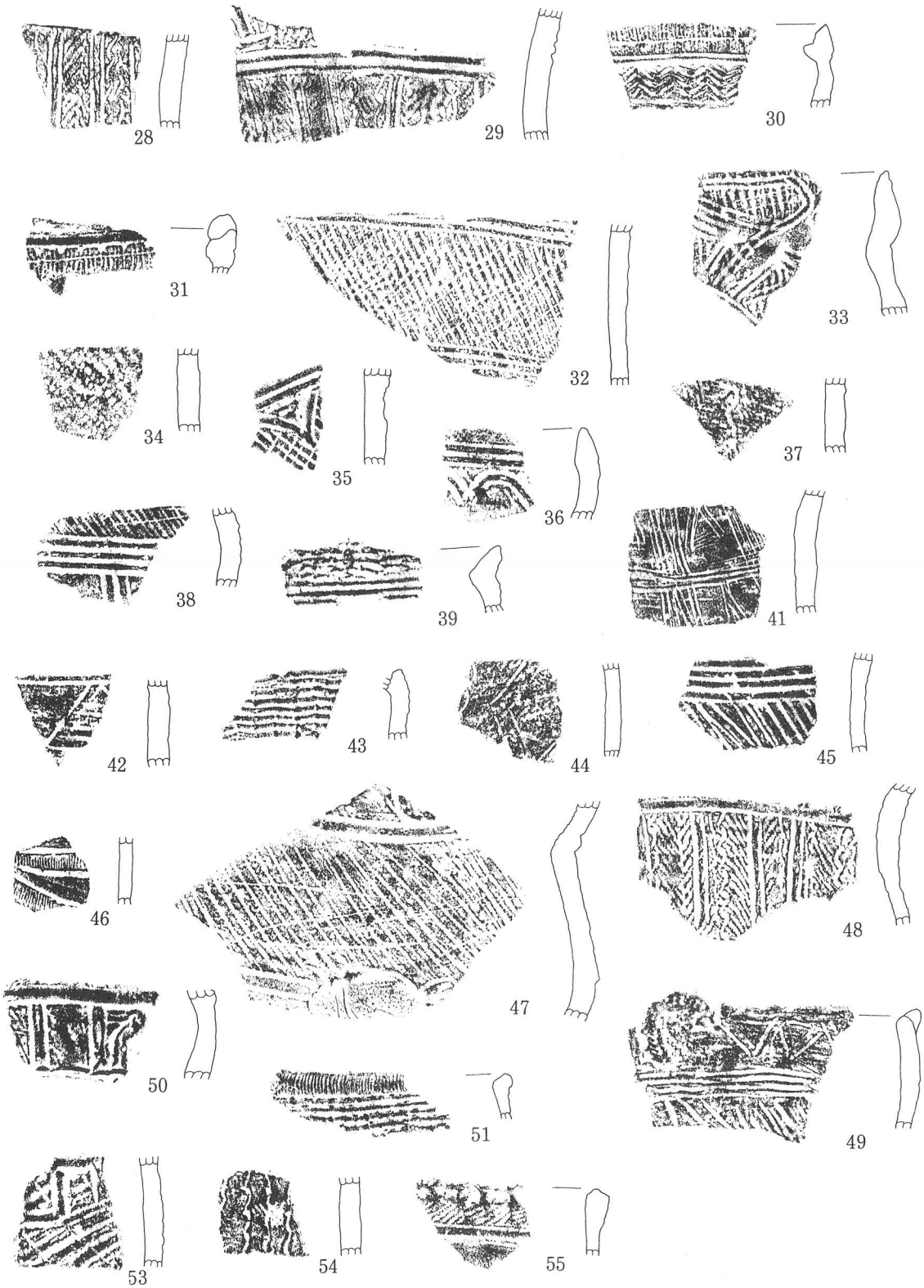
石器観察表

番号	出土地点	層位	種　別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	石　材
1	SD－1	Ⅳ′	石　鏃	1.65	1.2	0.2	黒曜石
2	SD－1	Ⅳ	石　鏃	2.25	1.3	0.4	黒曜石
3	SD－1	Ⅳ′	石　鏃	2.0	1.5	0.35	黒曜石
4	SD－1	Ⅳ′	石　鏃	2.8	1.8	0.45	黒曜石
5	SD－1	Ⅳ′	石　鏃	1.5	1.7	0.3	黒曜石
6	SD－1	Ⅳ	石　鏃	1.8	2.2	0.5	チャート
7	SD－1	Ⅳ′	石錐カ	4.0	2.7	1.4	水　晶
8	SD－1	Ⅳ′	打製石斧	7.3	6.2	0.75	ホルンフェルス
9	SD－1	Ⅳ′	打製石斧	11.7	4.8	2.1	ホルンフェルス
10	SD－1	Ⅳ	打製石斧	7.4	5.0	1.1	ホルンフェルス
11	SD－1	Ⅳ	打製石斧	9.8	5.1	1.0	ホルンフェルス
12	SD－1	Ⅳ′	打製石斧	9.9	4.3	1.5	ホルンフェルス
13	SD－1	Ⅳ′	打製石斧	6.5	4.3	1.0	ホルンフェルス
14	SD－1	Ⅳ	打製石斧	7.5	5.0	0.5	ホルンフェルス
15	SD－1	Ⅳ	磨　石	13.5	7.5	5.8	花崗岩
16	SD－1	Ⅳ′	石　皿	10.8	6.5	2.6	

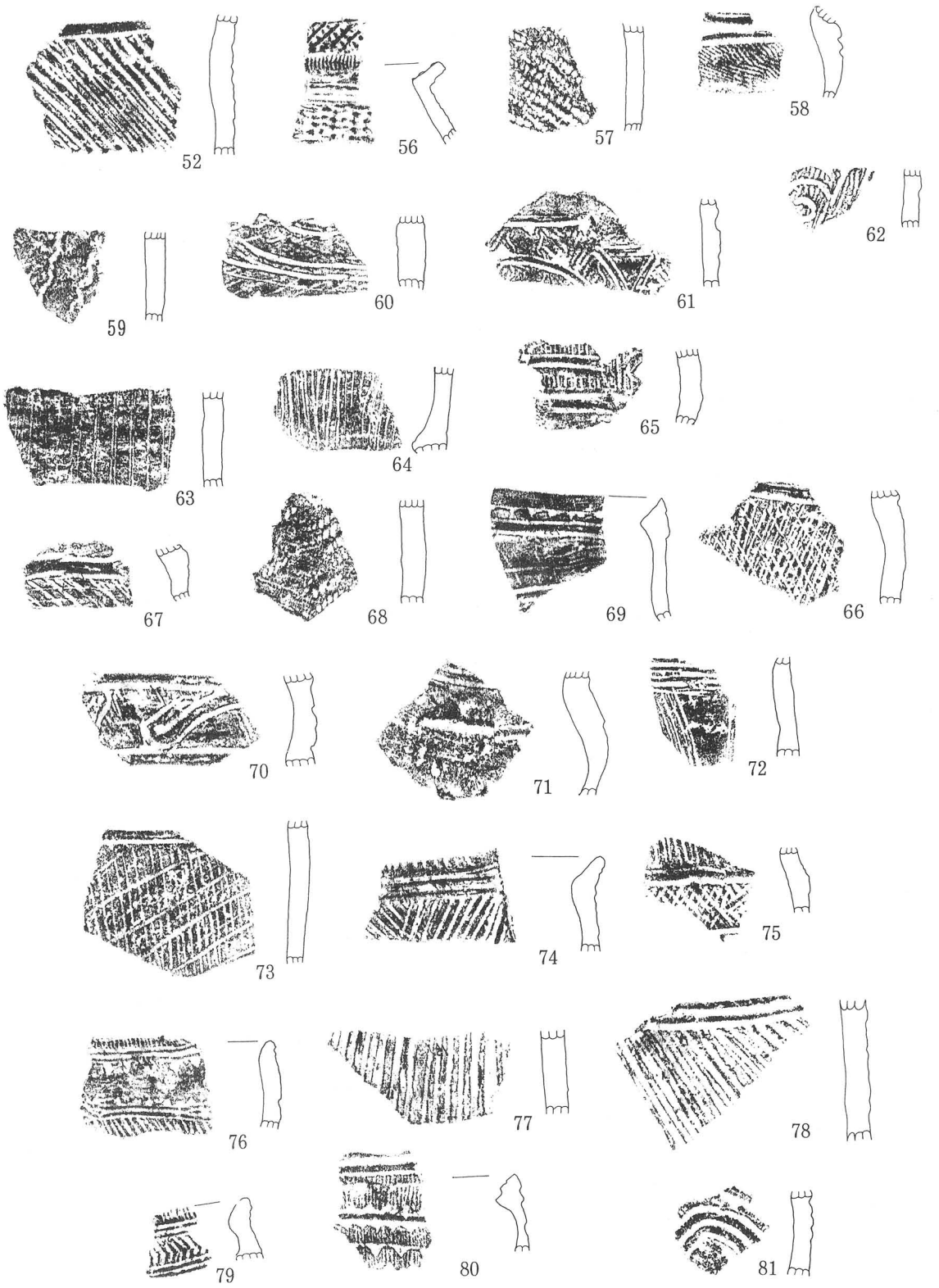


第5図　出土遺物

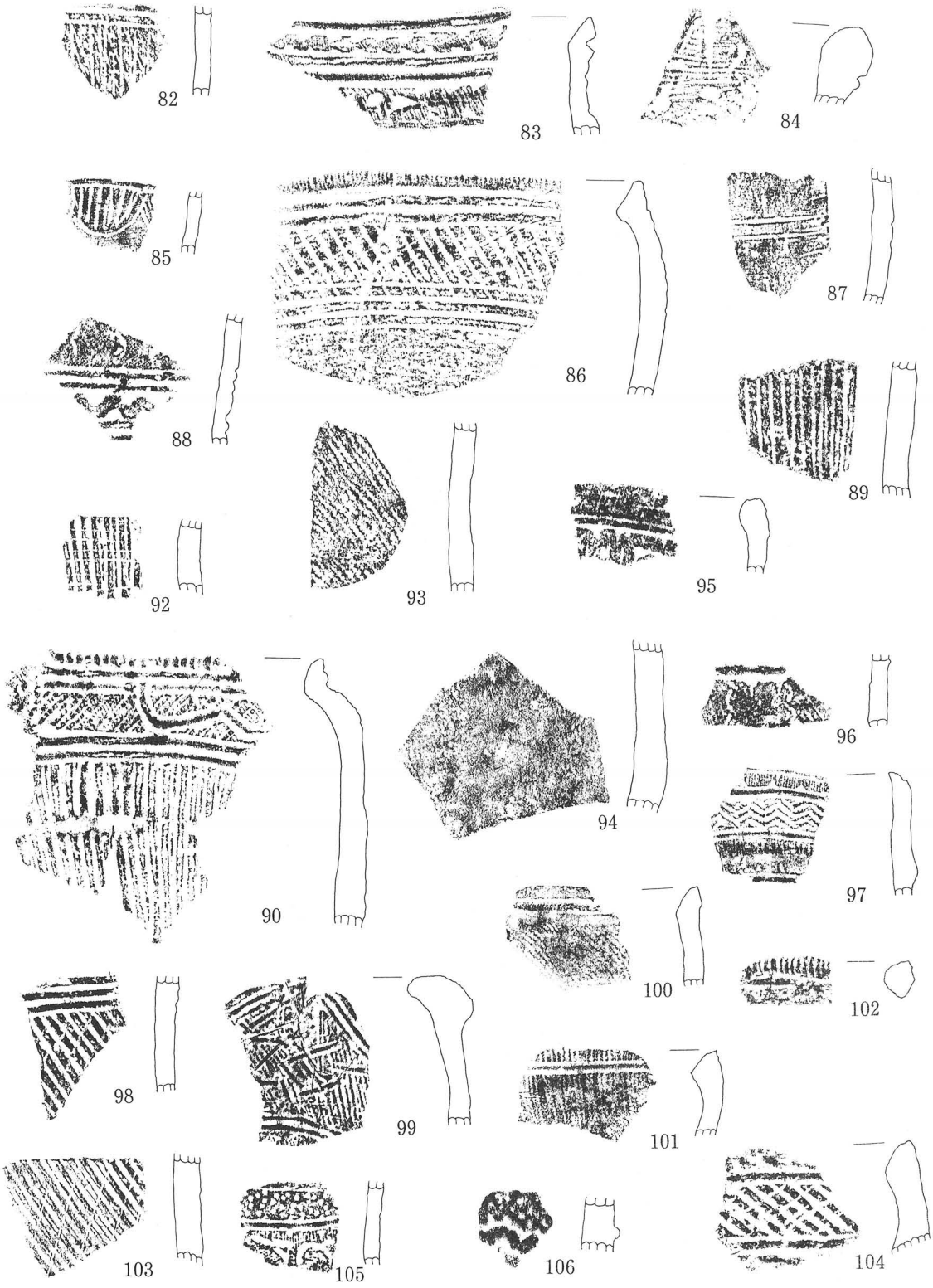
0　10cm


28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
53
54
55
0
10cm

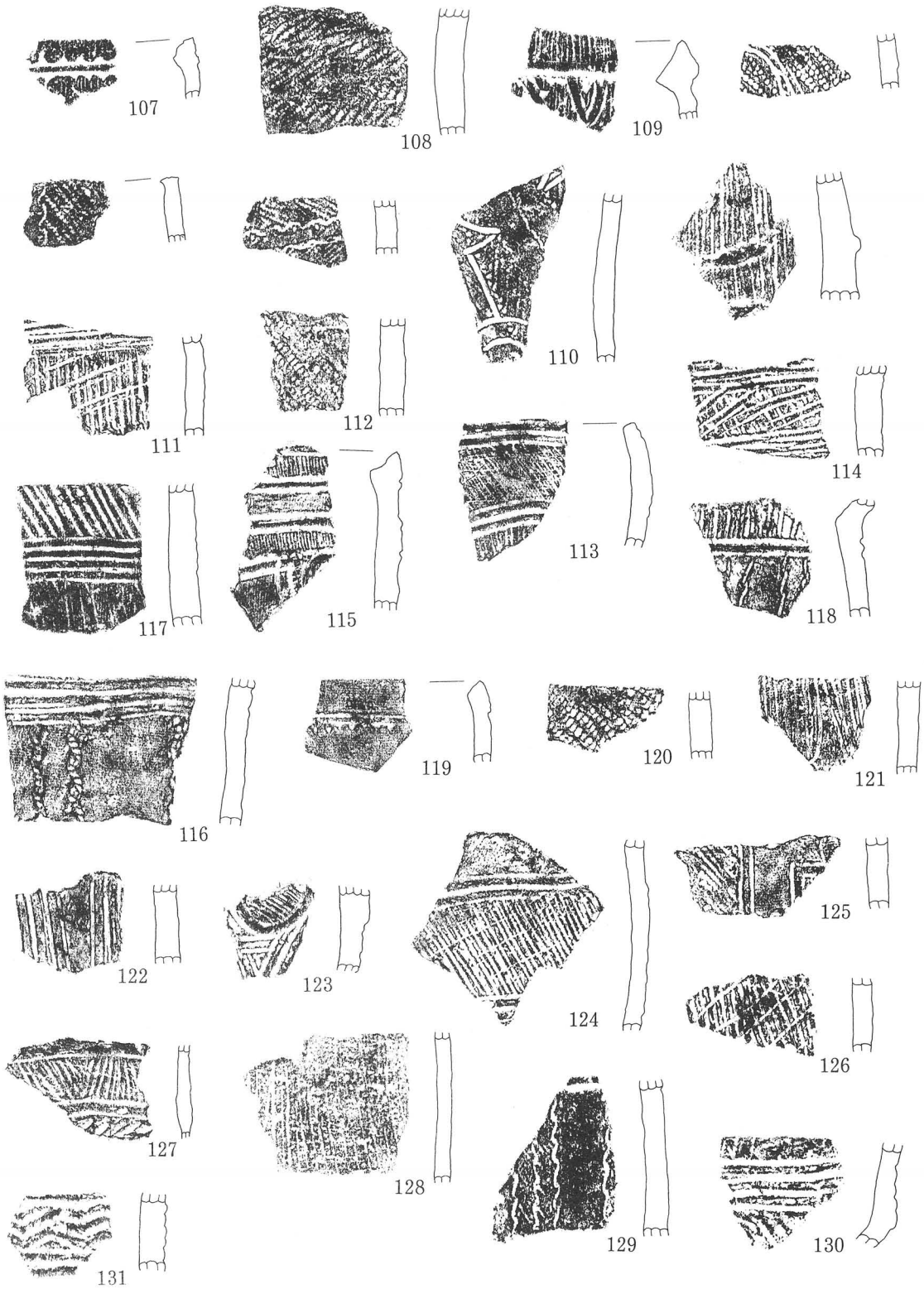
第6図　出 土 遺 物


52
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
0
10cm

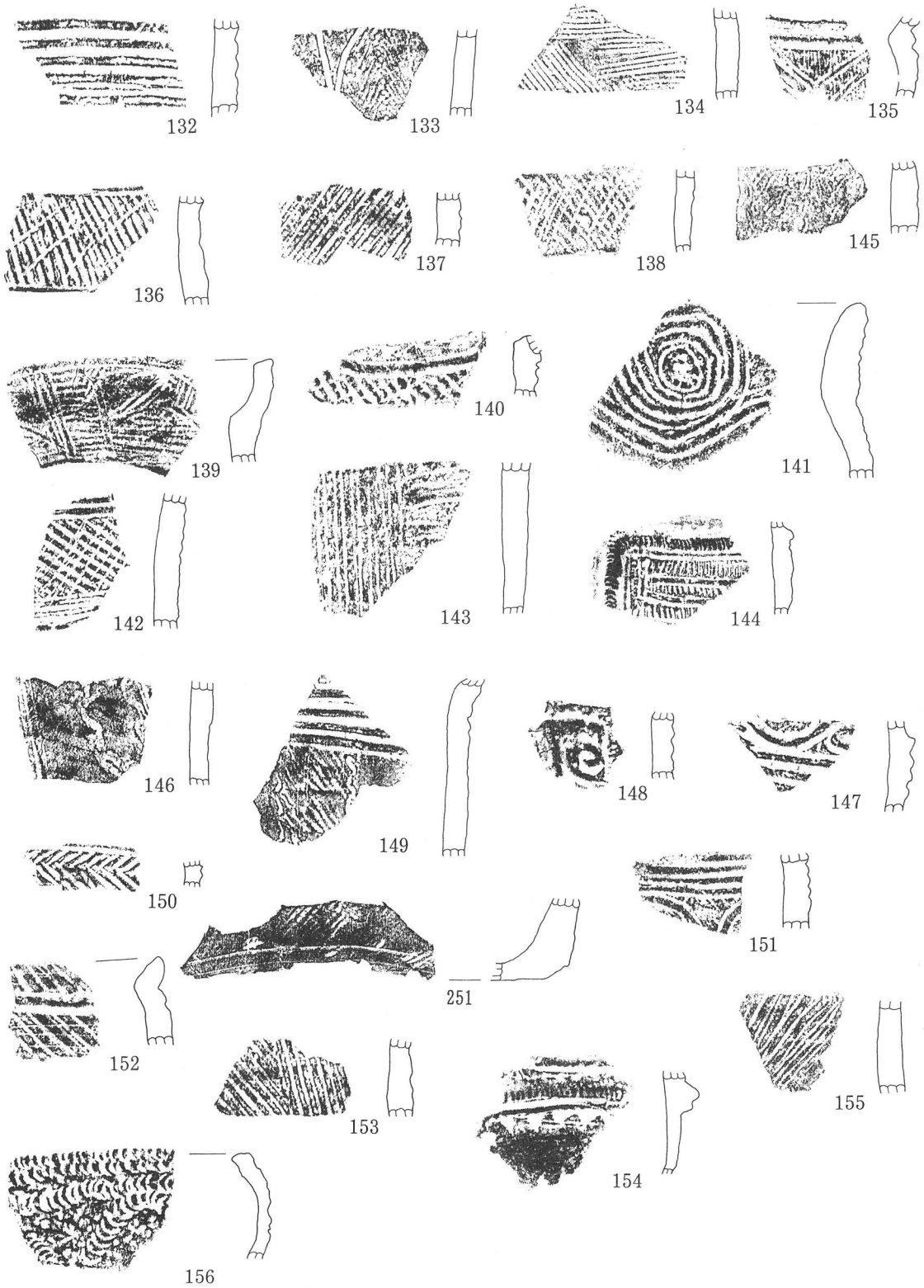
第7図　出土遺物


82
83
84
85
86
87
88
89
92
93
95
96
94
97
90
100
102
98
99
101
103
105
106
104
0
10cm

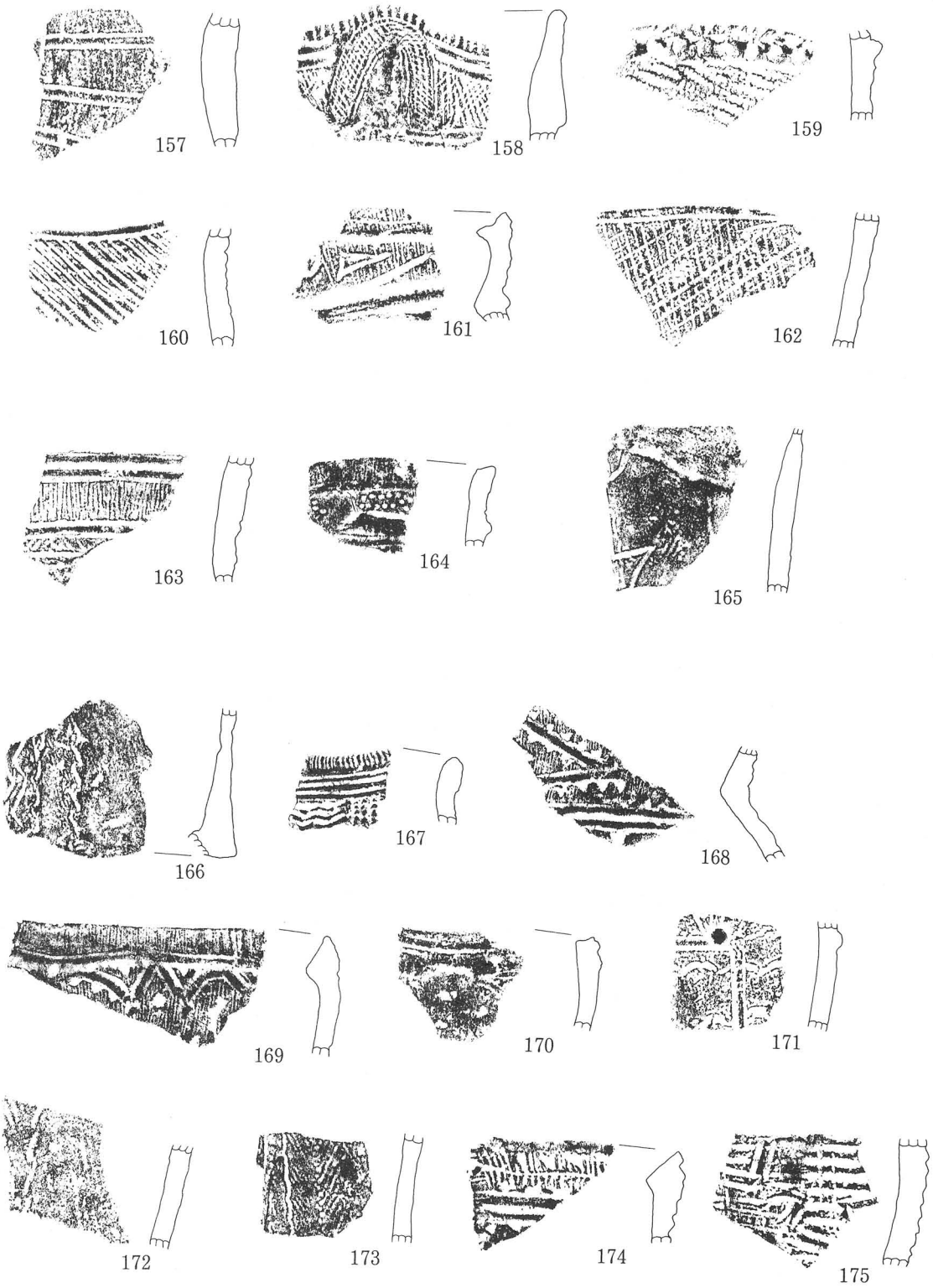
第8図　出土遺物



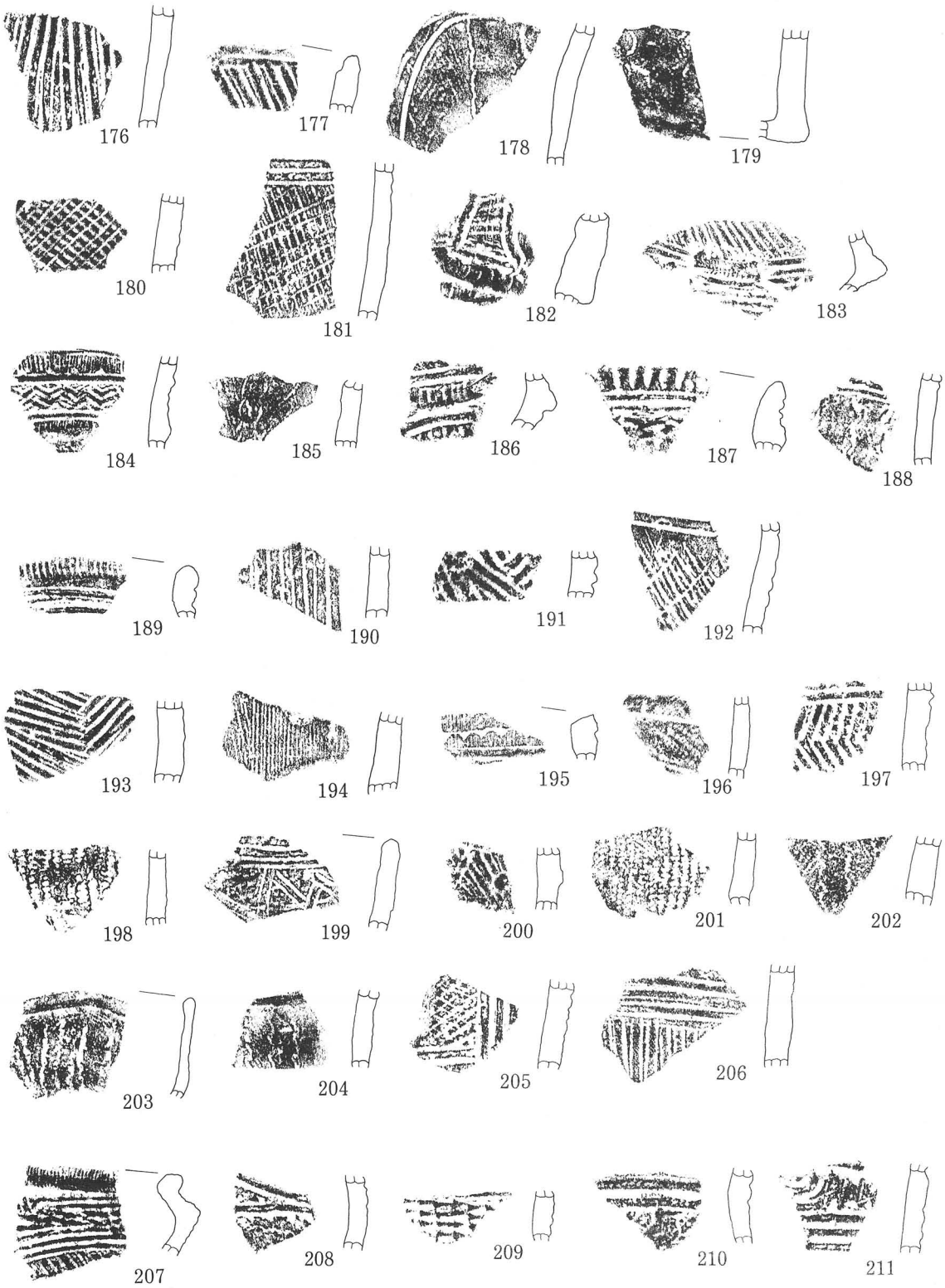
第9図　出土遺物　0　10cm



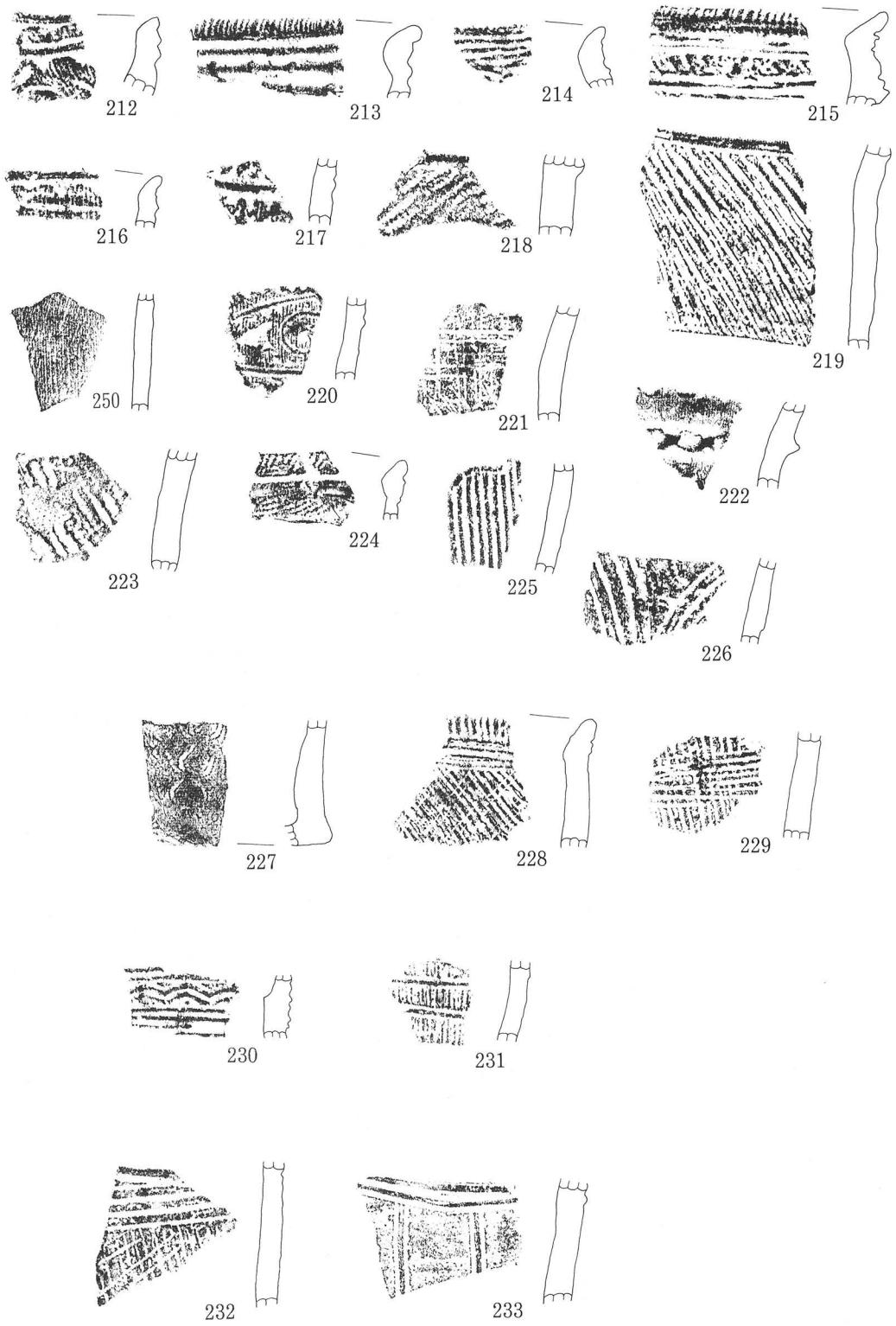
第10図　出土遺物　　0　10cm


157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
0
10cm

第11図　出土遺物

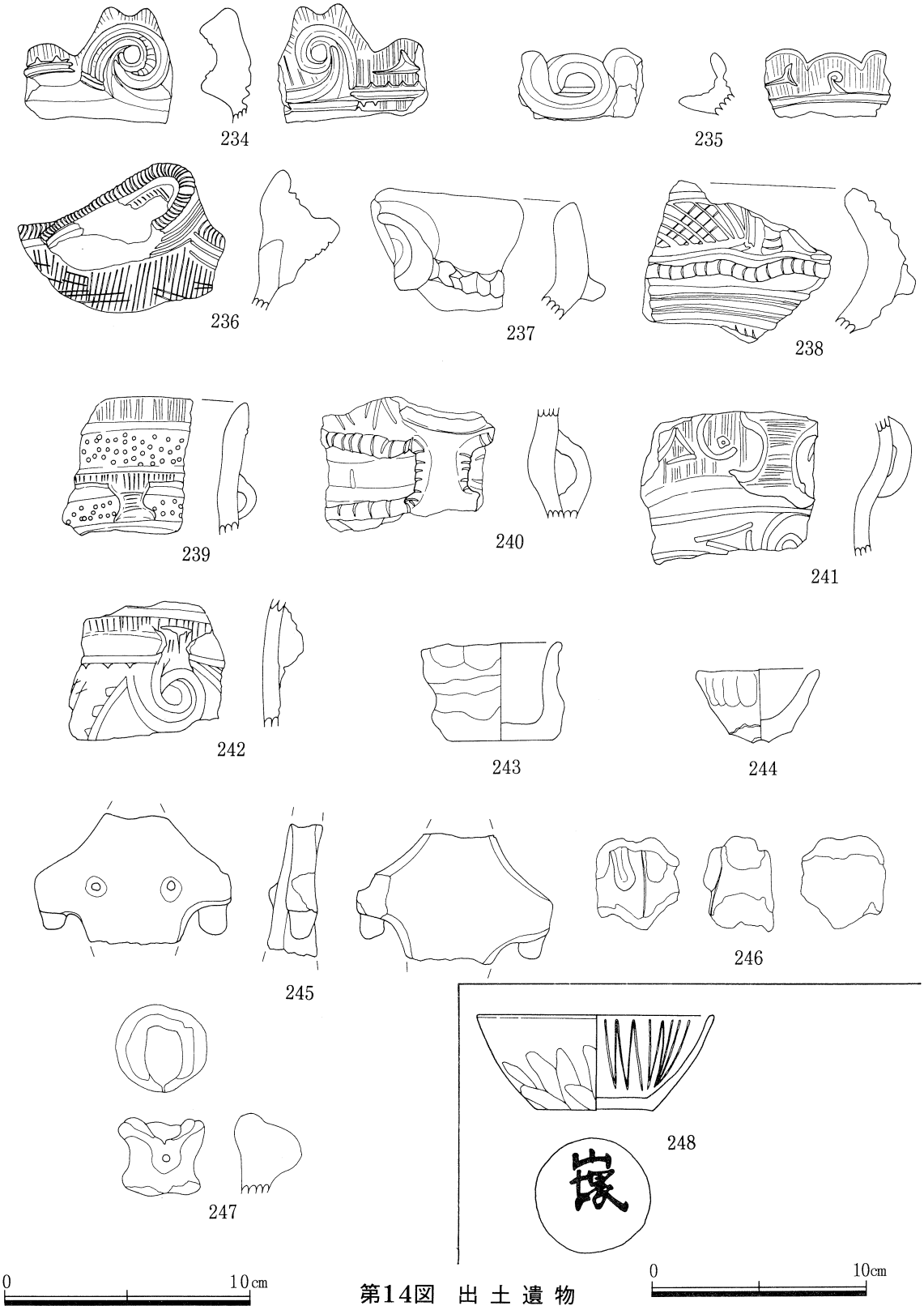

176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
0
10cm

第12図　出土遺物

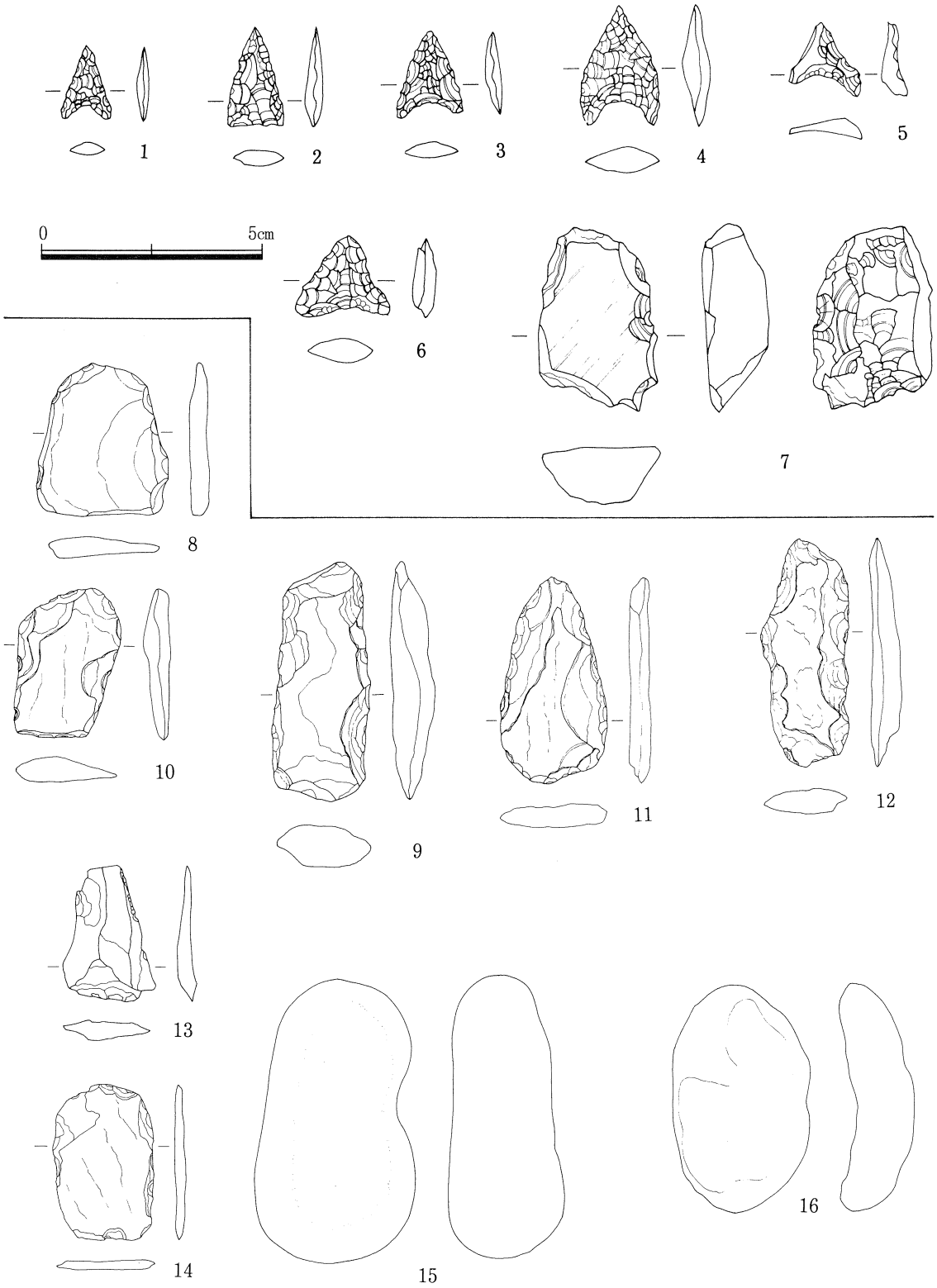


第13図　出土遺物

0　10cm


234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
0
10cm
0
10cm

第14図　出土遺物



第15図　出 土 遺 物

第5章　考　　察

(1)　溝状遺構について

今回検出された溝状遺構は、覆土中に砂を含む層が認められ、礫の粒径及び円形度が不揃いであるという点から、河川の跡と考えられる。覆土中から集中的に土器が出土したため、遺構としたが、人工的なものか自然の下刻作用によるものかは不明である。遺物については、石材の下からの出土を含め、覆土中の全層位から出土しているが、遺構に伴うものとは断定できない。しかし、覆土中出土の248は、平安時代の土師器であり、口径11.0cm、底径5.4cm、体部外面下半の手持ヘラ削り、内面体部には放射状暗文があるがみこみ部にはない、などの要素から甲斐型土器編年のⅧ期[1]、年代にして９世紀第２四半期前後が当てられると思われ[2]、遺構の年代も概ねそれに沿うものと思われる。

(2)　まとめ

今回の調査では、河川の跡と思われる溝状遺構１条が検出されたほか、多量の縄文土器・石器が出土し、土偶・ミニチュア土器のはか平安時代の土師器には底部外面に墨書があるなど、多彩な遺物が出土した。

今回は調査範囲が狭く、断片的な調査であり、溝状遺構については性格的に不明な点が多く、七日子神社や七日子遺跡との関係について考える資料となり得るかどうかは疑問であるが、本調査地の周辺には多くの包蔵地が近接しており、今後の調査によってそれらが明らかになることに期待したい。

註

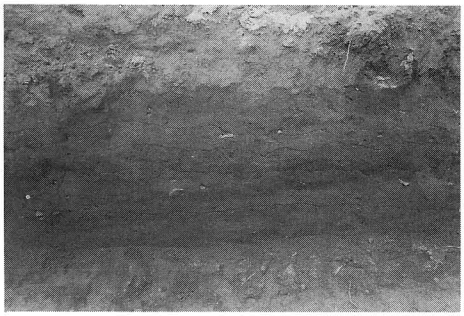
(1)　坂本美夫　末木　健　堀内　真　「甲斐地域」『神奈川考古第14号　シンポジウム　奈良・平安時代土器の諸問題－相模国と周辺地域の様相－第Ⅱ版』1983　神奈川考古同人会
　山下　孝　「坏」『甲斐型土器－その編年と年代－』1992　山梨県考古学協会

(2)　瀬田正明　「甲斐型土器の年代」『甲斐型土器－その編年と年代－』 1992　山梨県考古学協会
　櫛原功一　「第５節　宮ノ前遺跡における奈良・平安時代の土器・陶器」『宮ノ前遺跡』1992　韮崎市遺跡調査会･宮ノ前遺跡発掘調査団･韮崎市･韮崎市教育委員会

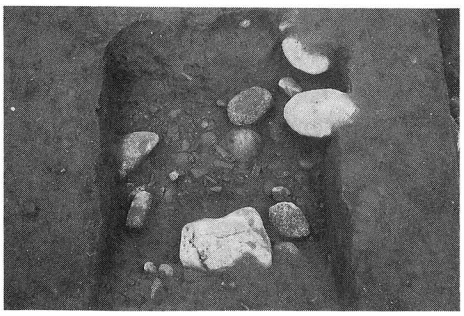
参考文献

山梨市教育委員会　『日下部』　1987
上野原町教育委員会　『上野原小学校遺跡』　1993
境川村教育委員会他　『立石南遺跡』　1993
牧丘町教育委員会　『古宿道上遺跡Ⅱ』　1994

調　査　前　風　景



第2トレンチ南壁セクション

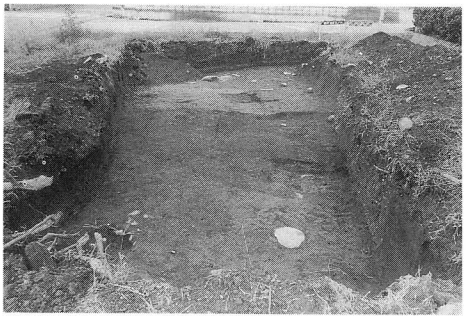


遺物出土状況1

遺物出土状況2

遺物出土状況3

遺物出土状況4



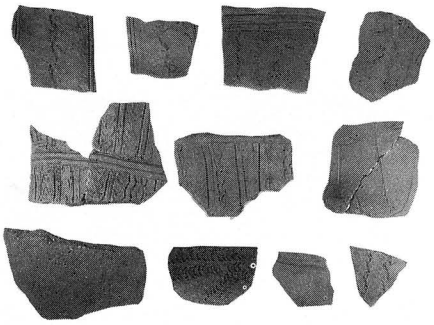
第3トレンチ

溝状遺構セクション

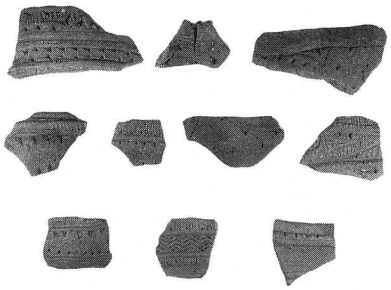
図　版　1

溝　状　遺　構

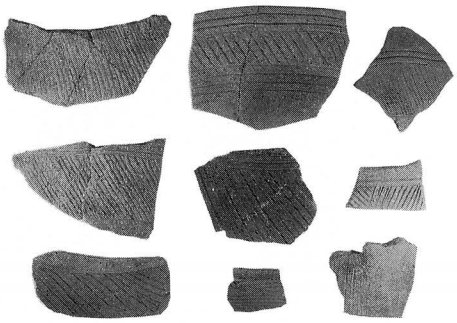
溝　状　遺　構（完掘）



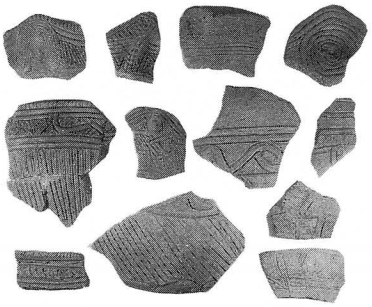
縄文土器1



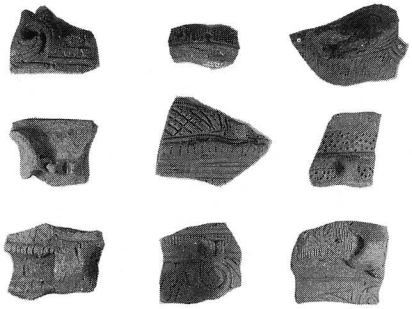
縄文土器2



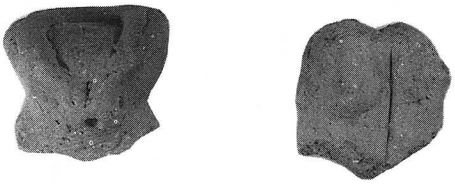
縄文土器3



縄文土器4

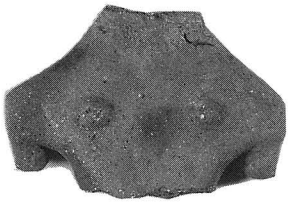


縄文土器5



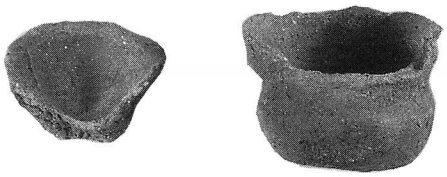
不明土製品

図　版　2

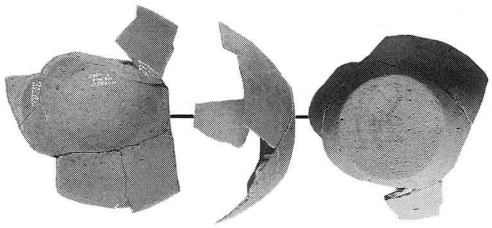


土　偶(正面)

土　偶（裏面）



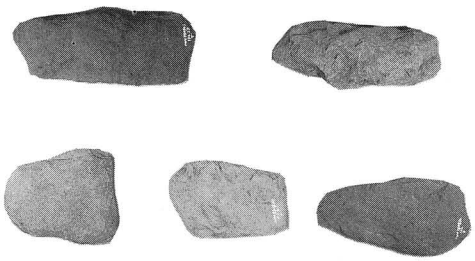
ミニュチュア土器



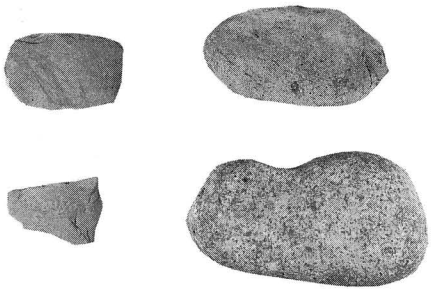
土　師　器

石　　鏃

石　錐　力



打　製　石　斧



打製石斧・石皿・磨石

図　版　3

報告書抄録

ふりがな	みやのまえいせき
書名	宮ノ前遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 3 集
編著者名	三澤 達也
編集機関	山梨市教育委員会
所在地	〒405 山梨県山梨市小原西955 TEL0553−22−1111
発行年月日	1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
みやのまえいせき 宮ノ前遺跡	やまなしけんやまなしし 山梨県山梨市 なのかいちば 七日市場1040	19205		35度 42分 24秒	138度 19分 20秒	19930817 ～ 19930913	105	分譲宅地造成に伴う緊急発掘調査

所集遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮ノ前遺跡		縄文 平安	溝状遺構1条	縄文土器 石器 平安時代土師器	